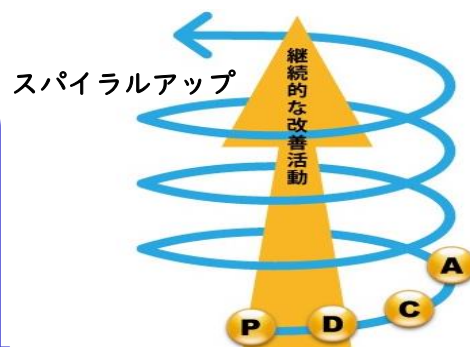


# 新たな価値を創造し 郷土と社会の未来を切り拓く人間の育成

## 【重点施策 5つの矢】

令和5年4月 行方市教育委員会

急激に変化する社会を生きる子供たちに新たな価値を創造する力やこれからの時代に求められる資質・能力を育成するため、学校教育プランの中から特に5つの重点施策を抽出し、夢や希望をもち学びに向かう力、豊かな心、健康やたくましさをすべての子供たちに育む教育を推進します。



- カリキュラム・マネジメントの充実
- 学力の確実な定着等の資質、能力の育成
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1の矢

学力向上

- 道徳教育の充実
  - ・ 幼児期から中学校までの道徳性を培う指導の推進
  - ・ 道徳科における「考え、議論する道徳」の推進
  - ・ 家庭や地域との連携

2の矢

豊かな心



### 幼小連携・小中一貫教育

11年間の接続・連携を通した切れ目のない教育

- 幼児期の特性を踏まえた教育の推進と接続
- 学びや生活の基礎となる生活上の自立の育成
- 家庭や地域との連携・協働

5の矢

幼児教育

- 全教職員による特別支援教育の充実
- 特別支援学級、通級による指導の充実
- 校種間及び関係機関等との切れ目のない支援の充実

4の矢

特別支援教育

- 治療的予防、教育的予防（未然防止、早期発見、早期対応、丁寧な初期対応）
- 心の居場所となり、絆づくりのできる学級づくりの推進
- 専門機関等との連携によるチーム支援の充実

3の矢

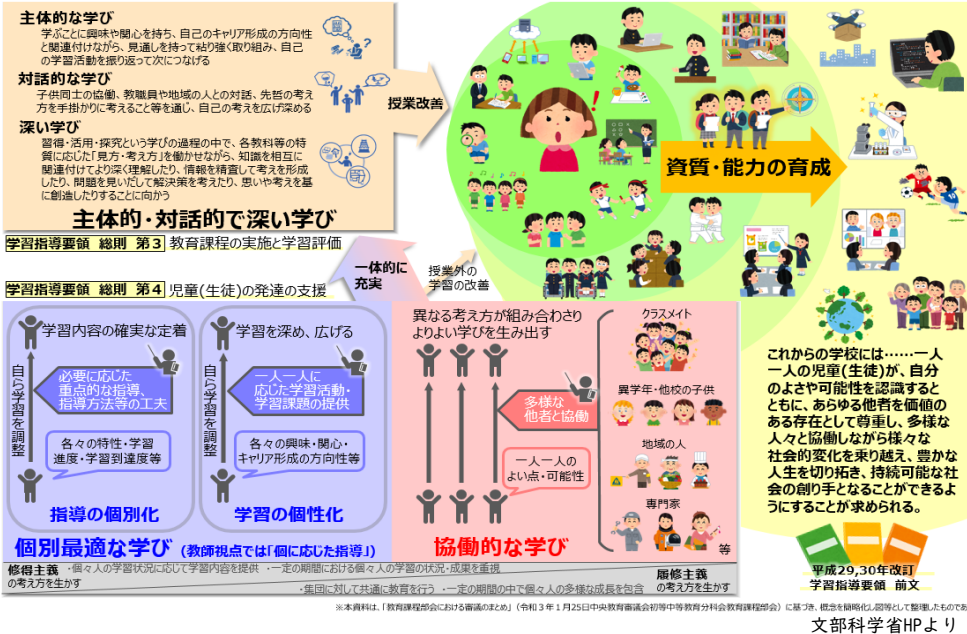
いじめ、長欠・不登校対策

**Base**：基本的な生活習慣の定着、健康・安全教育  
家庭、幼稚園、学校、地域の連携



# これからの教育で重視すること

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実



## 行方市が目指す国際教育

外国の学校との交流やA L Tを活用した事業により自らの国の伝統・文化に根ざした自己を確立し、異文化を知り、受け入れ、国際社会で主体的に行動するために必要な態度・能力を育成します。

### ■ 中学生海外派遣研修事業

- ・ 語学研修、習慣や文化、生活等の体験
- ・ 令和5年度は「行方市中学生異文化体験研修」として福島県にて実施

### ■ 海外交流事業

- ・ 市内小学校とオーストラリアの小学校の遠隔システムによる交流

### ■ 実践的英語能力育成事業

- ・ 市内小中学校全校へのA L Tの配置
- ・ 実践的英語学習プログラムの実施 (対象は小学生、希望制)

令和5年4月 行方市教育委員会

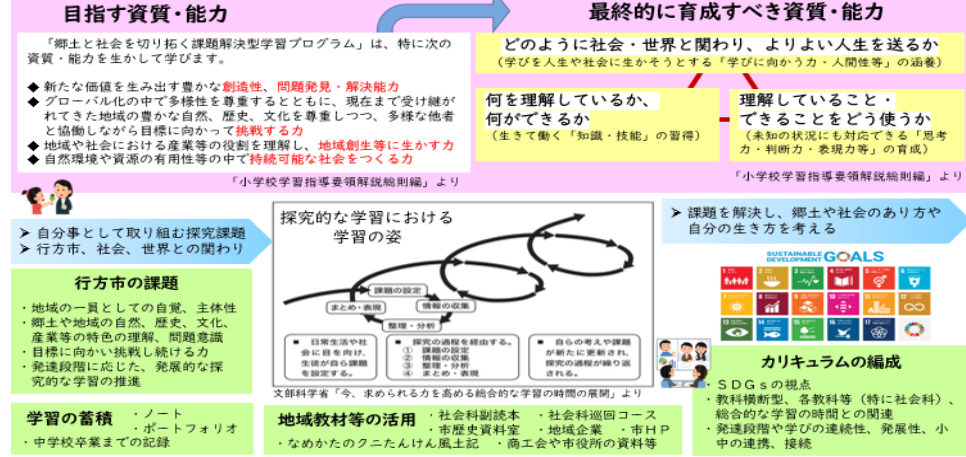
# 郷土と社会を切り拓く課題解決型学習

## 「郷土と社会を切り拓く課題解決型学習プログラム」の推進

～郷土と社会の関わりで考え、探究・発信・提言し、これからの生き方を再考する～

行方市  
オリジナル

教科横断型の「郷土と社会を切り拓く課題解決型学習プログラム」は、児童生徒が「どのように郷土と社会と関わり、自分には何ができるか、どうすべきか、現在や将来にどうつながるか」など、よりよい**自分の生き方**を考える主体的・協働的な学習です。



## 資質・能力の確実な育成のためのICT活用の推進

### G I G A スクール構想と目指す学び

行方市教育委員会  
令和5年4月

#### 学習指導要領の実現

各教科等での深い学び  
・ 各教科等の見方・考え方  
・ 各教科等の固有の知識、教科横断的な学習等

#### 「情報活用能力」の育成

- ◆ 目指すは誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」、そして「協働的な学び」の広がり
- ◆ 教師が教える授業<児童生徒が自分たちで問題を解決する授業

#### これから必要となる「学び方」とは

- ◆ 自分で個別最適な学びができるスキル  
例)  
・ 学習の見通しをもつ、計画を立てる  
・ 自分なりの学習の仕方を知っている  
・ 学習を振り返り、改善する 等
- ◆ 協働的な学びに必要なスキル  
例)  
・ 相手にわかるように表現する  
・ 他の方の話を自分の考えに生かし、自分の考えをよりよいものにする  
・ 必要な情報を引用する 等



学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成	
知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解 3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解
思考力、判断力、表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ含む) 2 これまでの教育実践の蓄積
学びに向かう力・人間性等	1 問題解決・探究における情報活用の態度 2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度

・ 家庭学習での活用  
・ デジタルシナジー  
・ 教育の推進  
・ 家庭と連携した情報モラル教育の推進

#### 教員のICT活用指導力の向上

- ◆ 行方市が重点とする「指導する能力」◆

- ◆ [B-4] グループで話し合っって考えをまとめた後、協働してレポート・資料、作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。
- ◆ [C-4] 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合っなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。

【参考資料】  
「令和5年度学習指導要領解説編」文部科学省  
「令和5年度学習指導要領解説編」文部科学省  
「令和5年度学習指導要領解説編」文部科学省  
「令和5年度学習指導要領解説編」文部科学省  
「令和5年度学習指導要領解説編」文部科学省

# 課題

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着と3つの資質・能力の育成
- 論理的思考力、情報活用能力

1の矢

# 学力向上

令和5年度  
行方市教育委員会

## 今年度の目標

誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」と「協働的な学び」による学習活動の充実を通して、単元（題材）を通した3つの資質・能力の育成を図る。

## 取組

### 「評価からの授業改善」による主体的・対話的で深い学びの実現

#### 教育委員会

- 学力向上研究指定校事業
  - ・ 麻生小、麻生東小、麻生中
- 学力向上研修会
  - ・ 授業公開、研究協議
  - ・ 校内研究への支援
- 行方市英語授業力向上プロジェクト
- 郷土と社会を切り拓く課題解決型学習プログラム（遠隔、他校との交流）
- ICT活用推進委員会（参集・オンライン）



出典：「スパイラルアップとは？の意味とPDCAサイクルの事例」  
<http://spiralup.qcmethod.net/2009/02/pdca.html>

#### 学校

- カリキュラム・マネジメントの充実
- 学力の確実な定着等の資質・能力の育成
  - ・ 評価からの授業改善
  - ・ 授業スタイルの実践、計画的な学び直し
  - ・ アプローチ・スタートカリキュラム
- 誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
  - ・ ICTの活用による指導の個別化と学習の個性化、協働的な学び
  - ・ 情報活用能力の育成
- 郷土や社会への提言、発信

指標	R4 現状値	R5 目標値
全国学力・学習状況調査で全国平均正答率を超える児童生徒の割合	小：国54.0%、算53.6% 中：国58.5%、数42.0%	小：国62.0%、算60.0% 中：国62.0%、数60.0%
県学力診断のためのテストで県平均正答率を超える児童生徒の割合	小：67.3% 中：49.9%	小：71.0% 中：66.0%
「授業に主体的に取り組んでいる」と回答する児童生徒の割合	小：94.7% 中：90.9%	小：95.0% 中：91.0%
「授業がよく分かる」と回答する児童生徒の割合	小：96.4% 中：88.7%	小：97.0% 中：89.0%
学校の授業時間以外で学習する平均時間が目数値以上の児童生徒の割合（一日）	小：83.8% 中：65.5%	小：84.0% 中：66.0%
「わたしは、地域または社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答する児童生徒の割合	小：85.6% 中：74.7%	小：86.0% 中：75.0%

- 自己肯定感・自己有用感の育成
- 道徳心、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性の育成
- 自分との関わりで考える道徳科授業

今年度の目標

幼稚園・学校の教育活動全体で発達段階に応じた道徳教育を推進するとともに、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考える道徳科の授業改善を図ることにより、道徳心、自己肯定感や自己有用感、他者への思いやり、人間関係を築く力、社会性など豊かな心を育成する

取組

教育委員会

- 計画訪問、要請訪問
  - ・ 授業公開、研究協議
  - ・ 助言・指導
- 道徳科授業改善研修会
  - ・ 授業公開、研究協議
  - ・ 研修会後の授業改善への支援
  - ・ 道徳教育推進教師への助言・指導
  - ・ 授業動画等を活用した研修
- 人権教育の推進
- 教務主任会等を活用した指導の充実
- キャリアノート活用についての助言

道徳教育の推進  
道徳的価値の理解を基に  
自分との関わりで考える道徳科授業改善

学校



出典：「スパイラルアップとは？図の意味とPDCAサイクルの事例」  
<http://spiralup.qcmethod.net/2009/02/pdca.html>

- 幼児期から中学校までの道徳性を培う指導の推進
  - ・ 年間計画、年間指導計画、別業
  - ・ 教育活動全体での道徳教育
- ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考える道徳科の授業づくりの推進
  - ・ 自我関与を喚起させる焦点化された問い
  - ・ 価値理解、人間理解、他者理解を基に自分との関わりで考える授業
  - ・ ねらいに基づく多様な指導法の工夫

指標	R 4 現状値	R 5 目標値
「みんなで遊ぶのが楽しい(幼児)」「みんなで何かをすることが楽しい(児童生徒)」と回答する割合	幼：98.6% 小：96.9% 中：94.7%	幼：99.0% 小：97.0% 中：95.0%
「わたしには、よいところがある」と回答する児童生徒の割合	小：87.4% 中：79.3%	小：88.0% 中：80.0%
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する児童生徒の割合	小：98.2% 中：95.7%	小：99.0% 中：97.0%

# 課題

- ▶ 「無気力・不安」を要因とする長欠・不登校児童生徒の増加
- ▶ 人間関係を築く力の育成
- ▶ 自己肯定感、自己有用感の育成

3の矢

## いじめ、長欠・不登校対策

令和5年度  
行方市教育委員会

### 今年度の目標

年々増加するいじめ事案、長欠・不登校児童生徒に対し、学校を中心として関係機関と連携を図りながら全職員の共通理解・共通実践のもとその減少に努めるとともに、社会的自立を図り、将来の生き方にも夢や希望をもつことのできる児童生徒を育成する。

### 取組

#### 教育委員会

- 生徒指導主事等研修会
- 長欠・不登校の未然防止及び解消に向けた取組に関する研修会
- 市教育支援センターと連携した長欠・不登校対応
- 心理・福祉・医療等の専門家、児童相談所、市教育支援センター、市こども福祉課等の専門機関との連携
- 行方市いじめ対策連絡協議会
- スクールカウンセラー配置事業
- スクールソーシャルワーカー活用事業

### 幼児児童生徒理解に基づいた 生徒指導体制



出典：「スパイラルアップとは？図の意味とP D C Aサイクルの事例」  
<http://spiralup.qcmethod.net/2009/02/pdca.html>

#### 学校

- 全職員による生徒指導体制（未然防止、早期発見、早期対応、丁寧な初期対応）
  - ・ 迅速かつ適切な初期対応
  - ・ 深い児童生徒理解に基づく学級経営
- 心の居場所となり、絆づくりのできる学級づくりの推進
  - ・ 児童生徒主体の活動の活性化
  - ・ 自己肯定感や自己有用感の育成
- 専門機関等と連携したチーム支援
  - ・ 積極的な教育相談
  - ・ 専門機関と学校、保護者の連携

指標	R 4 現状値	R 5 目標値
不登校児童生徒の割合（30日以上）	小：1.5% 中：7.8%	小：1.2% 中：3.5%
「みんなで遊ぶのが楽しい(幼児)」「みんなで何かをするのが楽しい(児童生徒)」と回答する割合	幼：98.6% 小：96.9% 中：94.7%	幼：99.0% 小：97.0% 中：95.0%
「わたしには、よいところがある」と回答する児童生徒の割合	小：87.4% 中：79.3%	小：88.0% 中80.0%
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答する児童生徒の割合	小：98.2% 中：95.7%	小：99.0% 中：97%

課題

- ▶ 児童生徒の適切なアセスメントに基づく個別の教育支援計画及び個別の指導計画の立案、指導
- ▶ 社会的自立に向けた児童生徒一人一人の能力や可能性の伸長

今年度の目標

個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、障害の状態等に応じた教育課程編成、自立活動等の授業改善により、児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、社会的自立に必要な能力を育成する。

取組

教育委員会

- 特別支援教育研修会
  - ・ 教務主任、特別支援教育コーディネーター
  - ・ 市教育支援委員会調査員の資質向上
  - ・ 担当者の専門性の確保と維持
  - ・ 自立活動の授業改善
- 特別支援教育相談員の活用
- 特別支援教育支援員の配置と研修、市教育支援センター相談員研修
- 医療相談、公認心理師、作業療法士との連携

社会的自立に向けた指導・支援



出典：「スパイラルアップとは？図の意味とPDCAサイクルの事例」  
<http://spiralup.qcmethod.net/2009/02/pdca.html>

学校

- 児童生徒の実態等に応じた適切な教育課程の編成
- 全教職員による特別支援教育の充実
  - ・ 適切なアセスメントに基づく個別の指導計画の作成・活用・見直し
  - ・ 計画的な校内教育支援委員会
  - ・ 通常の学級における特別支援教育の視点を生かした指導の充実
- 特別支援学級、通級による指導の充実
  - ・ 評価からの授業改善、ICTの活用
- 校種間及び関係機関等との切れ目のない支援の充実、連携、確実な引継ぎ

指標	R 4 現状値	R 5 目標値
個別の教育支援計画の作成・活用・見直しをしている幼児児童生徒の割合	幼：100.0% 小：100.0% 中：97.1%	幼：100.0% 小：100.0% 中：100.0%
個別の指導計画の作成・活用・見直しをしている幼児児童生徒の割合 ※ 個別の指導計画の作成；活用・見直しを図る意義は、個別の指導計画に基づく指導と評価をPDCAサイクルによって繰り返すことにより、授業改善が図られ、児童生徒のさらなる成長が期待できるようになることです。	幼：100.0% 小：100.0% 中：100.0%	幼：100.0% 小：100.0% 中：100.0%

## 課題

- ▶ 幼児の思いや願いを実現する指導
- ▶ 教師同士の相互理解を図るための「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用

## 今年度の目標

幼児の心を揺さぶる体験、幼児の必要感から生じた体験などを大切に、幼児児童の実態や課題及び教師同士の相互理解に努め、発達や学びを通して一貫した指導に必要な力を育成する。

## 取組

教育委員会

- 行方市幼児教育研究協議会（玉造幼稚園）
  - ・ 保育公開 ・ 研究協議
  - ・ 要請訪問
- 幼児教育施設職員等合同研修会
  - ・ 接続カリキュラム研修
- 小学校・公立幼稚園計画訪問
- 幼児教育施設訪問
  - ・ 市健康増進課
  - ・ 教育委員会
- 保幼小連携・接続研修会

## 評価からの保育改善

園・学校



出典：「スパイラルアップとは？図の意味とPDCAサイクルの事例」  
<http://spiralup.qcmethod.net/2009/02/pdca.html>

- 幼児期の特性を踏まえた教育の推進と接続
  - ・ 安心、発揮、自立の向上を図る接続カリキュラムの実施
  - ・ 幼児の遊びを中心に幼児の主体性を育む
  - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の育成と共有
  - ・ 「評価からの保育改善」の推進
  - ・ 評価からの園内研修の内容の改善
- 学びや生活の基礎となる生活上の自立の育成
- 地域との連携・協働
  - ・ 基本的生活習慣の見直しと推進
  - ・ 幼児期からの非認知的能力の育成教育

指標	R 4 現状値	R 5 目標値
「みんなで遊ぶのが楽しい」と回答する幼児の割合	98.6%	98.8%
「幼稚園が楽しい」と回答する幼児の割合	100.0%	100.0%
あいさつと返事ができる幼児の割合	98.6%	98.8%
幼稚園は、保育研究や事例研究など、実践的な研修を「よく行っている」と回答する教職員の割合	100.0%	100.0%

- ▶ 子供たちの基本的な生活習慣の定着（朝食摂取・睡眠時間・むし歯の治療率・スマホ、SNS等の利用時間）
- ▶ 基本的な生活習慣を改善し健康を保持・増進しようとする力の育成

目標

「地域の子供は地域全体で育てる」という目標の達成に向けて、講演会の実施や訪問型家庭教育支援事業を推進し、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの基本的な生活習慣の定着を図る。

取組

子供たちの健やかな成長

教育委員会

幼稚園・学校・家庭・地域の連携

園・学校

- 基本的な生活習慣改善事業
  - ・ 講演会の実施（歯科医師や大学教授を招聘した講演会）
  - ※ P T A 連絡協議会と連携して実施
  - ・ 基本的な生活習慣に関するリーフレットの配布
- 訪問型家庭教育支援事業
  - ・ 「こんにちは訪問」の実施（小学1年生を対象にした全戸訪問）
  - ・ 健康増進課、こども福祉課、学校教育課等との連携
- 家庭教育力向上推進事業
  - ・ 就学時健康診断、新入生説明会での家庭教育学級の実施



出典：「スパイラルアップとは？図の意味とPDCAサイクルの事例」  
<http://spiralup.qcmethod.net/2009/02/pdca.html>

- 「基本的な生活習慣」の意識付け
  - ・ 朝食摂取 ・ 睡眠時間の確保
  - ・ スマホ、SNS等の利用時間
  - ・ むし歯治療、予防 ・ 歯みがき指導
- 学校保健委員会の充実
  - ・ 行政と連携した学校保健委員会の実施
- 家庭教育学級の実施
  - ・ 家庭の教育力向上
  - ・ 家庭や地域との連携
- 新型コロナウイルス感染症対策
  - ・ 感染しないための予防対策
- 安全・防災教育
  - ・ 自ら考え、危険を回避する能力の育成

指標	R 4 現状値	R 5 目標値
朝食を毎日食べている幼児児童生徒の割合	幼：98.6% 小：94.1% 中：87.4%	幼：99.0% 小：97.0% 中：90.0%
発達段階に応じた睡眠時間が確保できている幼児・児童・生徒の割合	幼：95.8% 小：68.8% 中：71.5%	幼：100.0% 小：70.0% 中：75.0%
むし歯を保有している幼児・児童・生徒の割合	幼：32.5% 小：14.8% 中：17.5%	幼：21.0% 小：14.0% 中：17.0%